

## 審議結果

審議会等名称：第146回神奈川県総合計画審議会

開催日時：令和6年11月22日（金）14：30～16：00

開催場所：神奈川県庁西庁舎6階 災害対策本部室

※Web会議サービスによるオンライン会議を併用して実施

出席者：◎長谷部勇一、○小野島真、○小池智子、小出寛子、河野英子、猿渡達明、清水みゆき、新保幸男、小泉隆一郎、玉田麻里、木村俊雄、赤野たかし、片桐紀子、岸部都、楠梨恵子、谷口かずふみ、山本哲〔計17名〕

（◎会長 ○副会長）

次回開催予定日：未定

問合せ先：政策局政策部総合政策課計画グループ 山田

電話番号045-210-3061（直通） ファックス番号045-210-8819

---

### 審議経過（議事録）

#### 議題 「新かながわグランドデザイン実施計画」の進行管理について

##### 《資料について事務局から説明》

- **長谷部会長**：それではただ今の説明を踏まえまして、「新かながわグランドデザイン実施計画」の進行管理につきまして、委員の皆様からご意見をいただきたいと思います。なお、審議に当たりましては、できる限り多くの委員の皆様からご意見をいただきたいと存じますので、お一人当たりの発言は、2分程度とさせていただきます。恐縮ですが簡潔なご発言をお願いいたします。それではご発言のある方は挙手をお願いいたします。また、オンラインで参加の方は挙手機能等でお知らせください。河野委員、お願いいたします。
- **河野委員**：私は、計画推進評価部会でも発言させていただいておりますので、その関連で発言いたします。今回も多様な意見を、綺麗に整理していただき、事務局の皆様のご尽力に本当に感謝申し上げたいと思います。今回、進めていくロジックモデルにつきましては、十分練られた1つの仮説であるということを前提に置いて、改善していくことも十分あり得ると考えれば、効率的で効果的な評価というものが可能になるのではないかと考えます。その前提があれば、改めて適切な評価指標が出てくれば、それを把握することも可能になりますし、さらには、費用対効果という観点からも、過度な負担にならずに、効率的で効果的な評価に繋がっていくのではないかと考えます。私からは以上です。
- **長谷部会長**：ありがとうございました。これに関連して他の方からご意見いかがでしょうか。小出委員お願いいたします。
- **小出委員**：今のご意見の評価指標に少し関連するポイントですが、昨年度や一昨年度にも、意味のあるKPIとは何かという議論がとても多かったと思います。特にコロナ禍の中で、KPIが意味を持たなくなってしまったケースもありましたが、それが4年間変更できないため、このままで行きたいというお話があり、結構議論が紛糾したと記憶しています。本来は、その4年間の中でも本当に必要であれば、KPIそのものを見直して、改善計画を立てていく必要があると思います。今回、その辺りを少し柔軟に対応するという記述がありましたので、少し安心したところです。関連するポイントとして、各KPIが本当に最終的に目指したい目標達成に寄与しているのかどうなのかというところが、とても重要だと思います。毎年の見直しと併せて、特に最終年度には、各KPIが、どれくらい効果的で意味のあるKPIだったのかをしっかりと

評価して、次期計画のKPIに生かしていただきたいと思います。なかなか進捗を定量的に測れない活動も多くて、KPIの設定そのものが難しい作業だと昨年伺いました。その中でも、少しでも意味のあるKPIを設定して進捗を追っていただきたいと思いますので、是非、目標への達成寄与率をきちんと評価していただきたいことが私からのお願いです。

1点、細かいポイントですが、資料2の中に総合分析という項目があると思います。もちろん、総合的にどうだったかという評価は重要だと思いますが、KPIの達成状況の中で、平均達成率を出されていますが、例えば、KPIが6個あったとして、その達成度を平均化することに意味があるのか、私としては疑問があります。例えば、すごく達成度が高いものと、すごく低いものがある場合、80%の進捗で済んだという数字を出しても、あまり意味がないような気がします。KPIが6個あったらそれぞれの達成進捗率を一覧表にして見やすくすることは大事だと思いますが、足し上げて平均してしまうのは、あまり意味がないと思います。少し見直しを検討していただければというお願いが最後の1点です。

- **長谷部会長**：ありがとうございました。今後のKPIの改善の可能性等に関して、他にご意見がありましたらお願いしたいと思います。無いようですので、事務局の方からご意見をお聞かせいただければと思います。
- **馬淵総合政策課長**：河野委員、小出委員、ご意見ありがとうございます。部会でもどう基準を設定するのか、KPIや関連する統計データを使って、どのように評価をしていくのか、ご議論をいただきました。その中で、まずはベースとしてKPIを設定しているので、KPIで4段階評価に当てはめてみてはどうか、その上で、KPI以外のものも含めて総合分析を行い、総合評価するという形で今回の案を取りまとめたところです。どのようにベースとなるKPI、発射台を作るのか、事務局としてもいろいろと議論させていただいて、今回の案を部会に提示をさせていただきました。その中で、KPIのそれぞれの達成状況は、一覧化しますが、それを1つのベースとするときに、今回は、平均達成率という形で示させていただきました。小出委員がおっしゃるように、高いものと低いもので、高いものに引っ張られてはならないという議論はありましたので、資料2の2ページにある吹き出しに示してあるように、100%以上のものも100%と扱うこととしました。KPIに高いもの低いものがある中で、特に低いものが重要になってくると思いますが、低いものがあった場合には、そのような事情も斟酌しながら、総合評価をする際に4段階の分類を分けるという形で、今回提示させていただいたところです。よろしくお願いします。
- **長谷部会長**：KPIの今後の柔軟な見直しについてはいかがでしょうか。
- **馬淵総合政策課長**：KPIの見直しについては、小出委員からお話がありましたように、昨年度、一昨年度からずっと議論を重ねてきたところです。KPIが妥当なのか妥当ではないのかということ判断するためにも関連する統計データをうまく利用できないかと考えたところです。KPIと指標の繋がりの中で、間に位置するような統計データを選ぶことによって結果的にそのKPI自体が意味のあったものなのか、それとも意味がなかったものなのかということも見えてくるのではないかと思います。そうしたことも含めて、評価のときには、関連する統計データも使いながら、仮にKPIが全然意味がなかったということであれば、必要に応じて、違うKPIにするのかそれとも統計データで補完するのかということで、そのKPIに固執して評価をしないようにと考えているところです。以上です。
- **長谷部会長**：これに関して小野島副会長から補足など何かありますか。
- **小野島副会長**：このKPIに関しては、部会の方でも意見が出ていまして、比較的柔軟に見直していこうというような形で意思統一されていたと感じています。ただ、あまり頻繁に変えてしまうと比較可能性というような問題も出てくるので、どのタイミングで、またどのような視点でそれを考えていくのかということ

ろに関しては、今後、タイミングを見て委員の皆様と議論できたらと思います。また、この平均に関しましても、数値が大きいもの、低いものに引きずられるのではないかというような意見が出たと記憶しております。当然これも実際に評価をしてみて、少し引きずられ過ぎなのではないかというようなものもあれば、この辺も柔軟に考えていくべきなのだろうと考えております。以上です。

- **長谷部会長**：最終的には二次評価で議論しますので、その時に反映するということが大事だと思います。またKPIに関しまして、大学でも中期目標、中期計画で、やはりKPIが求められているのですが、6年間変えるのは駄目だと言われ、厳しく管理してやっていく形になっています。県の場合は、そこまで厳しくはないと思うのですが、おそらく行政にとってもKPIが重要なものになってきますので、そう安易には変えられないというのは私も印象としては分かりますので、ご理解いただければと思います。

それではこれに関連してもいいのですが、他のご意見はございますか。谷口委員、どうぞ。

- **谷口委員**：県議会議員の谷口でございます。まず資料を作成いただきまして、事務局の皆さまありがとうございます。資料1「進行管理について」の5ページ、「(ア)関連する統計データ」ですが、少しイメージが湧かないのですが、具体的に目標のイメージが湧くようなものが何かあればお示しいただきたいと思っております。

併せて、3行目に、「データの選定に当たっては、できる限り全国や他団体との比較が可能など」という記載がありますが、国内にとどまっていよいのかと思います。例えば、主要国で先進的に取り組んでいる国のデータというのも、1つの比べる資料になるのではないかと思うのですが、この2点についてお伺いしたいと思っております。

- **長谷部会長**：ありがとうございます。それでは、ただ今の質問に関し事務局の方からお願いいたします。

- **馬淵総合政策課長**：谷口委員、ありがとうございます。まず1点目、どのようなイメージかという質問でございますが、事務局としてもこれから統計を探していくところですが、例えば、資料2をご覧ください。例として「未病・健康長寿」をお示しさせていただいていますが、こちらの指標では、「平均自立期間」という形で、いわゆる健康寿命に近い概念でございますけれども、そうしたものが入っています。それと併せて、未病という形で、3ページでは、KPIとして3つ設定しているところですが、今回、統計データのイメージでお示ししているのは、4ページ、「メタボリックシンドローム該当者数」です。つまり、こういうKPIを挙げていくことによってメタボの方々が減るだろう、その上で健康寿命も延びるだろうということです。今後、統計データは、よりふさわしいものを設定していく予定ですが、そうしたイメージで考えているところです。

2点目の国内に止まらず世界という貴重な意見ありがとうございます。我々も今統計データを探しているところですが、国の省庁のデータベースや統計なども見ながら、どういったものが採れるのか引き続き検討していければと考えています。以上です。

- **長谷部会長**：それでは、オンラインで参加の赤野委員、どうぞ。

- **赤野委員**：今の質問にも関連しますが、関連する統計データについては、国も都道府県別のデータを発表していますし、シンクタンクでも同様に、様々な都道府県比較データを出していますので、どのようなデータを活用するかは議論が必要かと思いますが、県が主体的に考えるだけでなく、そうしたものも積極的に活用していただいて、様々な外部評価も参考にしながら、神奈川県が他の地域と比べてどのような位置関係にあるのかということをよく考えていただければと思っております。

それから、そもそもの話ですが、4段階評価の書き振りで、「概ね順調に進んでいます」とあり、この点は記述が難しいところもあろうかと思いますが、本来知りたいのは、「概ね順調に進んだ結果どうなったの

か。」もしくは「やや遅れてしまった結果どうなったのか。」が本来の評価だと思いますので、「順調に進んでいます。」等だけで終わるのではなく、それによって何が変わったのかを明記していただくよう、今一度考えていただきたいと思います。以上でございます。

- **長谷部会長**：ありがとうございました。事務局のご意見を伺えればと思いますので、お願いいたします。
- **馬淵総合政策課長**：赤野委員、ありがとうございます。今、2つ目にあった今後の対応についてですが、その辺りはしっかりと評価報告書の中に書き込んでいけるようにしていきたいと考えてございます。今、イメージということで、資料2、2ページの最終評価の枠の中に、「今後の課題と対応の方向性」という欄を設けさせていただきましたが、審議会でもいただいた意見を書く、また、その前提として県の一次評価のところでも、総合分析の欄に今後どういう対応が必要なのかということを書き込んでいきたいと考えてございます。以上です。
- **長谷部会長**：ありがとうございました。それでは、他にご意見はございますか。岸部委員、どうぞ。
- **岸部委員**：かながわ未来の岸部です。私からもデータのこと、質問したいと思います。今回のグランドデザインは、「ジェンダー」と「ともに生きる」と「当事者目線」の視点を3つの主流化としていつも意識していきますということで、すごく大事なことが入ったと思っています。私はジェンダー主流化の視点から質問したいのですが、今の社会、県内においても、まだまだ女性と男性が置かれている状況の違いや、多様なニーズを把握していくことが、新しい施策や効果的なアプローチの検討には必要なことだと思っています。そのような視点で見ると、先ほどから話が出ている、関連する統計データにおいて、基礎的なデータによっては、男女別にデータを把握するということでは、まだまだ男女別というものが入っていないものもたくさんありますし、県が取っているデータの中でも、不足があるのではないかと考えています。事業によっては、そこをしっかりと見ていかなければ、次の施策、事業の中で、このPDCAサイクルを回す視点の中では必要なところ、数字が足りないのではないかと思うのですけれども、今回このグランドデザインを進めるに当たってジェンダー主流化の視点の中ではどのように進めようとしているのか伺いたいと思います。
- **長谷部会長**：ありがとうございました。では事務局からお答えいただければと思います。
- **馬淵総合政策課長**：岸部委員、ありがとうございます。委員からお話があったとおり、ジェンダー主流化という言葉も総合計画でも位置付けさせていただいたところでございます。その中で、性別によって置かれている状況の違いというものをしっかりと把握する観点も重要な視点かと思っています。そういう意味で言いますと、例えば関連する統計データで言えば、4ページのところで、メタボリックシンドロームのところで男性、女性を分けて把握するとかそうしたこともやっていきたいと思っています。加えて、どのように総合計画を進めていくかという観点においては、今、全庁を挙げて各所属に人権男女共同参画の施策の主任者を置く取組を行っています。各課で、ジェンダー主流化の観点から自分の所属の仕事が、ジェンダー平等の観点で取り組んでいるのかということ、しっかりと考えていこうという取組です。あわせて、そういう基礎的なデータについても、積極的に取っていかうという努力をまさにこれから取り組もうとしているところで、まずはジェンダー統計について理解を深めるような研修を始めたところでございます。こうした取組を引き続き深化させて取り組んでいければと考えているところでございます。
- **岸部委員**：検証していただいているということですが、やはり県民の様々な状況を把握するという意味で、まだまだ「女性活躍の視点」とはいうものの、その置かれている状況の把握なしには活躍ができないと思っておりますので、しっかり理解を進めて、施策に反映していただきたいと思います。以上です。

- **長谷部会長**：はい、ありがとうございました。それでは、他にご意見は。片桐委員、お願いいたします。
- **片桐委員**：日本維新の会、神奈川県議会議員の片桐でございます。私からはこの評価報告書に関して、「広報について」になろうかと思えますけれども、資料3「第101回計画推進評価部会における意見と県の対応」にある11番、12番のところ、例えば「KPI」「ロジックモデル」、こうした難しい言葉に、分かりやすく解説を入れたらどうかですとか、まず、若者など様々な人たちにこの報告書を見ていただけるよう、その対策として親しみやすい概要版を作ってくださいということで、とてもいいなと思いました。私も部会を傍聴させていただきましたが、私たちにとっては聞き慣れた言葉でも、県民にとってはなかなか馴染みのない言葉なので、そうした対策をお願いしたいと考えていたところでございます。今回概要版を作るに当たっても、例えば実際に、デザインができた段階で、あるいはでき上がる前の段階で、若者たちの意見等も、参考に聞いていただきたいと思えます。現代の若者たちは、図や絵などのビジュアル、色、こうしたところで、興味を示す、示さないということに関わってくるようです。

実は身をもって体験したのが、選挙の話で少し恐縮ですが、「政策パンフレット」という、候補者個人が出すものではなく、政党が出すパンフレットを、大学生の方や高校の高学年の方に見ていただいたことがあります。それは選挙の後ですが、そうしましたら、日本維新の会のパンフレットには、例えば、「可処分所得」が云々など書いていて、それよりも「手取りを増やす」と書いた方が、もちろん分かりやすかったですでしょうし、またそのパンフレット自体も、見やすいように思えるのですが、文字ばかりで、ほとんど図もない、グラフもない、ビジュアル的な部分がまるっきりない。学生さんたちに見ていただいたときに、まず手に取って見ない。よほど政治に興味のある人だったら見るかもしれませんが、手に取ってもらえないというところから、私たちにとっては課題があったと思えましたし、またそういう、政治用語に慣れていたり、あるいは政治のパンフレットをよく見て慣れ親しんでいたりする私たちにとってはあまり感じなかったものが、実は実際にそうした分野から遠い人たちにとっては、あまり興味のないものなので、まず何か興味を引くものがなければ、中身まで見ていこうとは思わないということが本当に多かったです。興味のある方ばかりのみ読んでいただけるので、興味のない方にも手に取って読んでいただくためには、やはり何かそうしたビジュアル的なアピールポイントがないと、内容だけではなかなか読んでくれる人は増えていかないのではないかと思いますので、実際の対象者の方々のご意見も聞いていただければと思います。以上です。
- **長谷部会長**：ありがとうございました。それでは、ただ今のご意見に関して事務局からお願いします。
- **馬淵総合政策課長**：片桐委員、ありがとうございました。ご指摘のとおり、見ていただければ始まりませんので、まずは見ていただけるために、どのようなものがよいのかをしっかりと考えて、手に取っていただけるものを作っていくことが大事だと思っています。委員に傍聴いただいた部会の場でも、評価そのものと伝えることとは分けて考えた方がよいというご意見がありました。そうした委員の皆様からいただいているご意見も踏まえて、今後概要版の作成については考えていきたいと思っています。以上でございます。
- **長谷部会長**：では、小池副会長どうぞ。
- **小池副会長**：今のことに関連いたしまして、見ていただきやすい概要版という中で、様々な障がいをお持ちの方たちも、本当に県政にたくさんの方の関心を向けてくださっています。特に、最近、障がい者の団体にヒアリングをしたときに、今回のこの「新かながわブランドデザイン」にとっても期待したいというお声もいただいております。また、そのときにご指摘をいただきましたのは、「ユニバーサルデザインを気にしていらっしゃるでしょうか。」といったことでもございました。もし概要版ということでありましたら、「見やすい色などユニバーサルデザインを気にかけていただけたら大変ありがたい。」ということでした。後は、コストの面では非常に難しいのかもしれませんが、例えば一部については点字サービスに回していただいて、点字でも

見られる形で、分かりやすさ、読みやすさ、伝わりやすさということを、様々な障がいをお持ちの方でもアクセスできる形でお示しいただくと、大変ありがたいと思っております。ヒアリングをして、今回のグランドデザインに非常に関心が高いといったことを聞いてございますので、それに応えていただければと考えてございます。以上です。

○ **長谷部会長**：今のご意見に関し、何か事務局の方からありますか。

○ **馬淵総合政策課長**：貴重なご意見をありがとうございます。点字版に関しては、今回グランドデザインを作る際、概要版の点字版を作成したり、また、県民意見募集の際に音声コードを付けて、目の不自由な方からもご意見をいただけるようにしたりと、取組を行ったところでございます。我々としても、「ともに生きる主流化」という形で計画にも記載してございますので、どうしたことができるのか、引き続き検討していければと思っています。以上でございます。

○ **長谷部会長**：ありがとうございます。それでは他にありますか。猿渡委員お願いいたします。

○ **猿渡委員**：猿渡です。いろいろな委員会に出ているのですが、指標がどのように達成されているのかが実施計画などで出てこないということがあります。障がいだけではなく地域福祉などもそうですが、例えば、団体に意見を聞いて、そこでよしとするのか、それともそうではないのか。今は医療的ケアの必要な子どもが地域の学校に行くということもそうですし、そこも含めて、いろいろな環境や政策もある中で、誰ひとり取り残さない神奈川になっているのか。昨日、知事との対話の広場を県央地域でやったのですが、その時も若い中高生の子どもたちから、地域の連携の中で守るモビリティという話の中で、大夙とモビリティを掛け合わせてどのように地域を活性化させていくかという話がたくさん出てきました。指標があつてこういうことを4段階で評価するということですが、そうしたことに関わったことがない方、例えば、就労継続支援B型などの地域作業所などそうしたところに通っている人たちは、実際問題みんな難しすぎると言っています。それこそ障害当事者部会ができて、様々なことをやっているのですが、言葉の言い換えだったり、例えば、中野先生のUDフォントを使ったり、あとデジタルデバイスの人たちに向けて、今、IT関係も大分進んではきましたが、そういう教室なんかもやられたりしているので、そこも踏まえて分かりやすく簡潔にする。何ができなかったのかというのはさっきも出ましたけれども、どうしたら出来たのかみたいな将来展望を見えるようにしたら、もっと分かりやすいのかなと思います。

それから、概要版もすごく短くてどう書いたらよいかといった点でイラストを入れるとか、未病とは何かなど難しい言葉などを簡潔に巻末の付属資料として一覧表にしていくことはすごく大事なかなと思っています。

また、より多くの意見という観点では、広報にどれだけ力を割けるかという問題はありますが、例えば、「神奈川県当事者目線の障害福祉推進条例」を作った時には、私も紙面に載りました。そうしたことから、例えば、総合計画、「いのち輝くマグネット神奈川」について、どのようなことを掲げてやっているのかということを紙面に大きく掲載したりするなど、より多くの方に関心を持ってもらい、神奈川に住んで良かったと思ってもらえるような書き方をすることが必要です。障がいの方では、シンポジウムをハイブリッドで開催し、YouTubeで動画を公開して、当事者本人の会など様々な人々からご意見を頂戴したということがあります。また、ロボット特区ややまゆり園についても同様ですが、風化してしまうことも多いです。従って、何が大事で、どのようにしたいのか。そのために、こうした審議会や部会で審議していることを細かく、いくつかに分けて、専門性を高めて、皆が分かりやすく、どのようなことをやっているのか、皆の興味を引くような使い方ができれば、よりよいと思います。皆様の意見を聞きながら、かなチャンTVで出すといったこともとても重要だと思いました。以上です。

○ **長谷部会長**：ありがとうございます。現場にどうやって声を届けるか。また、現場から具体的な声を拾

って、それを指標データにするというご指摘だったと思います。事務局から何か回答はありますか。

- **馬淵総合政策課長**：猿渡委員、貴重なご意見をありがとうございました。こちらはまさに、部会でまとめていただいた資料1の5ページ「(5) 評価結果の公表について」及び6ページ「(6) 県民の意見について」の取組を、どう実効性のあるものにできるのかということに尽きると思います。皆様に知っていただき、ご意見を頂戴した後、さらに、それらを施策の改善に繋げていくことが重要になってくると思います。評価については、来年7月以降に公表し、1月ぐらいまでかけて、県民の皆様のご意見を聞いていきたいと考えています。その間、様々な場を活用して、県民の方に知っていただくような取組を進めていくことを考えていきます。以上です。
- **長谷部会長**：それでは、オンライン参加の清水委員、お願いします。
- **清水委員**：私も、数値で評価をする改善のための努力と、それをいかに伝えるか、また、伝わらなければ、意味がないと思っています。先ほどのユニバーサルデザイン、UDのフォントなど、改善の余地はたくさんあるだろうなと思っています。評価報告書自体はおそらくかなり硬いものになるのかもしれませんが、概要版だとか、成果が出ているようなところについては、コラムなどを入れて、こんな取組をしているからこんな成果が出ている。その成果が出ている、特に取り組んだ人たちも関係者も、成果が出て良かったこと、こういう改善点があるとは言いつつも、前向きな評価も盛り込んだような形でぜひ概要版を作っていたければと思います。以上です。
- **長谷部会長**：貴重なご意見だと思います。是非、反映するような方向でお願いしたいと思います。次にオンラインで参加の玉田委員、どうぞ。
- **玉田委員**：先ほども同じような意見が出たかもしれないのですが、県民の意見を集めるところで、現状出ているのは概要版を配るとか、ホームページやSNSで、アクセス性を高めて、アクセスしてもらって意見を集めるということだと思います。それだとアクセスしてもらうのを待つしかない状況なのが少しもったいないと思っています。例えば高校生等ですと、それを教材にプロジェクト学習にしろってもらうとか、もう少しこちらから仕掛けていく。アクセスを待つのではなくて、高校生ないしは各自治体でもワークショップが開けるようなそうしたパッケージなど、もう少し自ら意見を取りに行く仕組みがあった方が、県民の意見が出やすいのかと思いましたので、ご検討いただければと思います。
- **長谷部会長**：ありがとうございます。今のご意見に関して事務局の方から何かございますか。
- **馬淵総合政策課長**：玉田委員、貴重な意見をありがとうございました。今、県庁では、例えば子どもであれば、「みらい☆トーク」という子ども目線会議を開催しています。そうしたそれぞれの分野を所管する局とも連携しながら、どういう形で、それぞれの分野の当事者から意見を聞き、積極的に出していけるかということも、庁内各局と意見交換しながらやっていければと思います。以上でございます。
- **長谷部会長**：その他に、ご意見はございますか。それでは、お時間になりますのでこの辺でまとめに入りたいと思います。当審議会におきましては、計画推進評価部会で検討していただいた進行管理（案）について、基本的には了承とさせていただきたいと思います。また、文言の調整等につきましては、会長にご一任いただいでよろしいでしょうか。
- **委員一同**：（異議なし）

- **長谷部会長**：ありがとうございます。それでは、そのようにさせていただきます。本日の議題は以上となりますが、委員の皆様、あるいは事務局から何かございますか。中谷政策局長、どうぞ。
  
- **中谷政策局長**：今日は、委員の皆様大変熱心なご議論をいただき、誠にありがとうございました。会議の冒頭から、様々なご意見が出ました。統計データの取り方、K P I・指標の設定のあり方や、ダイバーシティ、ユニバーサルデザインなどの視点、それから、広報、県民意見の募集の仕方と、非常に多岐にわたったご意見でありました。昨年度、新かながわランドデザインを策定しましたが、本日皆様にご議論いただきましたご意見なども踏まえ、今後はマネジメントサイクルによって計画を着実に実施していくことが求められています。一方、我々はコロナ禍を経験して、計画の目的、目標について、当初設定してきたものだけでは評価することが難しい事態にも見舞われました。そうした経験も踏まえて、今回の評価のあり方は柔軟性を持たせるような形も考えながら、計画を着実に推進していきたいと思っております。今日は皆様から貴重なご意見をいただきました。皆様のご意見の趣旨をできる限り踏まえまして、今後の計画の進行管理に生かしていきたいと思っております。引き続き県政運営にご協力賜りますようお願いいたします。今日は誠にありがとうございました。
  
- **長谷部会長**：私の方からも、この審議会で活発なご議論をいただいたこと、また、円滑な進行を心がけていただいたこと、本当に感謝申し上げます。それでは本日の審議会をこれにて閉会いたします。どうもありがとうございました。